

FUJIFILM

2012年度 決算説明会

富士フイルムホールディングス株式会社

2013年4月30日

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

本日はお忙しいところお集まりいただき有難うございます。

富士フイルムホールディングス 2012年度決算について
ご説明させていただきます。

2012年度 決算 概況 (2012年4月～2013年3月)

- 欧州の景気低迷による需要減
- IT機器の需要低迷と、それに伴う市場の在庫調整によるフラットパネルディスプレイ材料の需要減
- スマートフォンの普及の影響によるコンパクトデジタルカメラの需要減
- メディカルシステム・ライフサイエンス、フォトイメージング、電子材料などが好調に推移

厳しい事業環境の影響を受けたが、メディカルシステム・ライフサイエンス、フォトイメージング、電子材料などが好調に推移し、増収増益

2

2012年度は、欧州の景気低迷による需要減などにより、全社的に厳しい事業環境となりました。

フラットパネルディスプレイ材料は、IT機器市場の需要低迷や、それに伴う市場の在庫調整の影響を受けました。

また、電子映像事業では、スマートフォンの普及による、コンパクトデジタルカメラの需要減の影響を受けました。

この厳しい事業環境に対し、各事業で新製品の投入や拡販施策の強化、コスト削減施策などを実施しました。

この結果、特に成長領域であるメディカルシステム・ライフサイエンスや、フォトイメージング、電子材料などが好調に推移し、前年比で増収増益となりました。

2012年度 業績 (2012年4月~2013年3月)

(単位:億円)

	2011年度	2012年度	対前年度
売上高	21,953 100.0%	22,147 100.0%	194 +0.9%
営業利益	1,129 5.1%	1,141 5.2%	12 +1.0%
税金等調整前 当期純利益	892 4.1%	1,192 5.4%	300 +33.6%
当社株主帰属 当期純利益	438 2.0%	543 2.5%	105 +24.0%
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	90.84円	112.65円	21.81円
為替 :米ドル :ユーロ	79円 109円	83円 107円	4円安 2円高

3

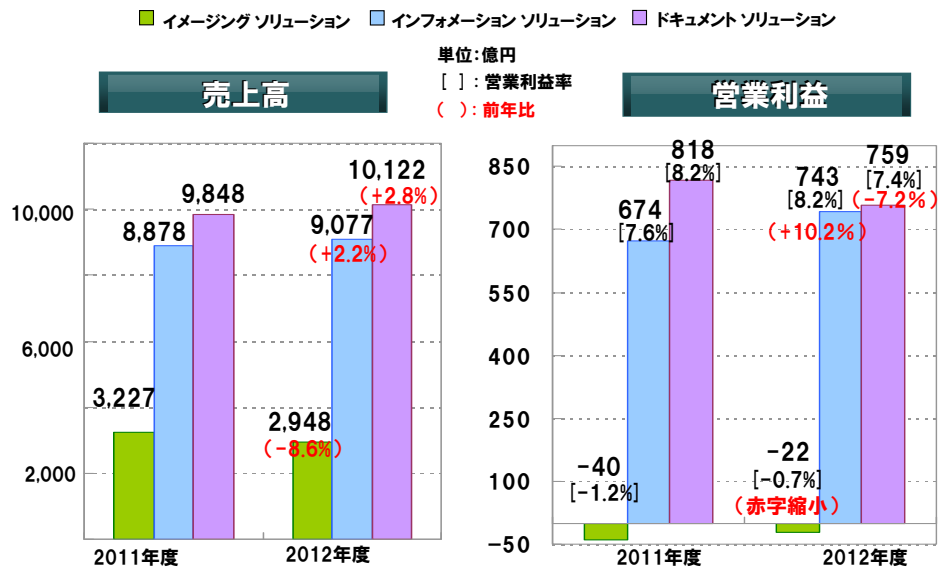
2012年度の連結売上高は、前年比0.9%増の2兆2,147億円、
営業利益は、前年比1%増の1,141億円となりました。

税金等調整前当期純利益は、為替が期後半より円安方向に向かい、
為替差益が出たことや、投資有価証券評価損が大幅に減少したことなどにより、
前年比33.6%増の1,192億円、

当社株主帰属当期純利益は、前年比24%増の543億円で、

1株当たりの当社株主帰属当期純利益は、112円65銭となりました。

セグメント別：連結売上高／営業利益



続いて、セグメント別の状況についてご説明します。

イメージングソリューション部門の売上高は、前年比8.6%減の2,948億円、営業損失は22億円で、赤字幅が縮小しました。

インフォメーションソリューション部門の売上高は、前年比2.2%増の9,077億円、営業利益は前年比10.2%増の743億円となりました。

ドキュメントソリューション部門の売上高は、前年比2.8%増の1兆122億円、営業利益は前年比7.2%減の759億円となりました。

セグメント別 概況

■ イメージング ソリューション

- ・ フォトイメージングではプリント材料製品の販売が堅調に推移。
特にカラーペーパーは、世界各国で他社からの切替が進んだことや、値上げを実施したことにより、売上が増加。
- ・ インスタントカメラの販売もアジアを中心に好調。

- ・ 電子映像では、Xシリーズをはじめとする高価格機種へのシフトを図っているものの、コンパクトデジタルカメラの需要減少が響き、売上が減少。

コンパクトデジタルカメラの需要減少の影響等を受け、減収だったものの、フォトイメージングが好調だったことやコスト削減施策により損益改善

5

イメージング ソリューション部門では、

フォトイメージングでは、プリント材料製品の販売が堅調に推移しました。特にカラーペーパーは、世界各国での他社からの切替が進んだことや、値上げを実施したことなどにより、売上が増加しました。また、インスタントカメラの販売もアジアを中心に好調でした。

一方、電子映像では、Xシリーズをはじめとする高価格機種へのシフトを図っているものの、コンパクトデジタルカメラの需要減少が響き、売上が減少しました。

イメージング ソリューション部門は、コンパクトデジタルカメラの需要減少の影響等を受け、減収だったもののフォトイメージングが好調に推移したことや、コスト削減策により、部門全体で損益が改善いたしました。

セグメント別 概況

■ インフォメーション ソリューション

- ・フラットパネルディスプレイ材料は、プレーンタック (60 μm、40 μm)、VA用フィルム・IPS用フィルムが堅調に推移したものの、モニター需要減とそれに伴う在庫調整によってWVフィルムの販売が低迷し、事業全体で売上が減少。
- ・メディカルシステムでは、成長領域である医用画像情報システムや内視鏡の販売が好調。また携帯型超音波診断装置メーカー「ソノサイト」の連結子会社化により売上が大幅に増加。
医薬品は富山化学や富士フィルムファーマなどの売上が増加し、約2割の売上成長。
ライフサイエンスはリニューアルした化粧品「新アスタリフト」及び新・美白スキンケアシリーズ「アスタリフトホワイト」などの新製品の販売が好調。
- ・グラフィックシステム、電子材料の売上が増加し、記録メディア、産業機材、光学デバイスの売上が減少。

メディカルシステム・ライフサイエンスで2ケタ%の売上
成長を実現したことなどにより、増収増益

6

続いてインフォメーション ソリューション部門です。

フラットパネルディスプレイ材料は、60ミクロン、40ミクロンのプレーンタックの販売や、VA用フィルム、IPS用フィルムの販売が堅調に推移しました。一方でIT機器の需要低迷や、在庫調整の影響により、WVフィルムの販売が減少し、全体の売上も減少しました。

メディカルシステム・ライフサイエンスでは、メディカルシステムの成長領域である医用画像情報システムや、内視鏡などの販売が好調に推移したことや、携帯型超音波診断装置メーカー「ソノサイト」の連結子会社化により、売上が大幅に増加しました。

医薬品は、富山化学や富士フィルムファーマの売上が増加し、約2割の売上成長を実現しました。

ライフサイエンスでは、リニューアルしたアスタリフトの販売、および、新しい美白スキンケアシリーズ「アスタリフトホワイト」などの化粧品の新製品の販売が好調に推移しました。

グラフィックシステム、電子材料は、売上が増加し、一方で、記録メディア、産業機材、光学デバイスでは売上が減少しました。

インフォメーション ソリューション部門は、メディカルシステム・ライフサイエンス等が好調に推移し、2ケタ%の売上成長を実現したことなどにより、増収増益でした。

セグメント別 概況

■ ドキュメント ソリューション

- ・ 欧州経済の低迷等の影響を受けて米国ゼロックス社向け輸出等が減少したものの、全体で売上が増加。
- ・ オフィスプロダクトの国内では、カラー機、モノクロ機ともに販売台数が増加し、市場における稼働台数及びコピー枚数も増加。
- ・ グローバルサービスは、国内、アジア・オセアニア地域ともに2ケタ%の売上成長を実現。2012年10月に豪州最大のビジネスサービスプロバイダーからビジネスプロセスアウトソーシング事業を買収したことも寄与。
- ・ 商品ミックスの変化や販売単価の下落等による影響を受け減益。

増収を確保したものの、米国ゼロックス社向け輸出の数量減や販売単価の下落等の影響を受け減益

ドキュメント ソリューション部門については、欧州経済の低迷等の影響を受けて米国ゼロックス社向け輸出が減少したものの、全体で売上が増加しました。

オフィスプロダクトでは、国内ではカラー機、モノクロ機ともに販売台数が増加し、市場における稼働台数及び、コピー枚数も増加しました。

グローバルサービスは、国内、アジア・オセアニア地域ともに2ケタ%の売上成長を実現しました。

昨年10月にオーストラリア最大のビジネスサービスプロバイダーからビジネスプロセスアウトソーシング事業を買収したことも、売上成長に寄与しました。

ドキュメント ソリューション部門は、増収を確保したものの、米国ゼロックス社向け輸出の数量減や商品ミックスの変化、販売単価の下落等による影響を受け、減益になりました。

連結貸借対照表

					(単位:億円)				
	10年度 末	11年度 末	12年度 末	対11年度 末		10年度 末	11年度 末	12年度 末	対11年度 末
現金及び現金 同等物	3,131	2,351	4,454	2,103	長短社債 及び借入金	1,896	1,989	3,583	1,594
受取債権	5,022	5,565	5,889	324	支払債務	2,614	2,584	2,510	-74
棚卸資産	3,422	3,780	3,999	219	その他流動 固定負債	4,069	4,259	4,255	-4
有価証券 その他流動資産	1,533	1,524	1,271	-253	負債計	8,579	8,832	10,348	1,516
流動資産計	13,108	13,220	15,613	2,393	株主資本計	17,225	17,218	18,689	1,471
有形固定資産	5,641	5,539	5,461	-78	非支配持分	1,284	1,347	1,559	212
営業権	3,444	3,935	4,122	187	純資産計	18,509	18,565	20,248	1,683
投資有価証券 その他資産	4,895	4,703	5,400	697	負債・純資 産 合計	27,088	27,397	30,596	3,199
固定資産計	13,980	14,177	14,983	806	(単位:円)				
資産合計	27,088	27,397	30,596	3,199	期末日 為替レート	10年度 末	11年度 末	12年度 末	対11年度 末
					米ドル	83	82	94	12円安
					ユーロ	118	110	121	11円安

次に、バランスシートについてご説明します。

2013年3月末時点の資産は、

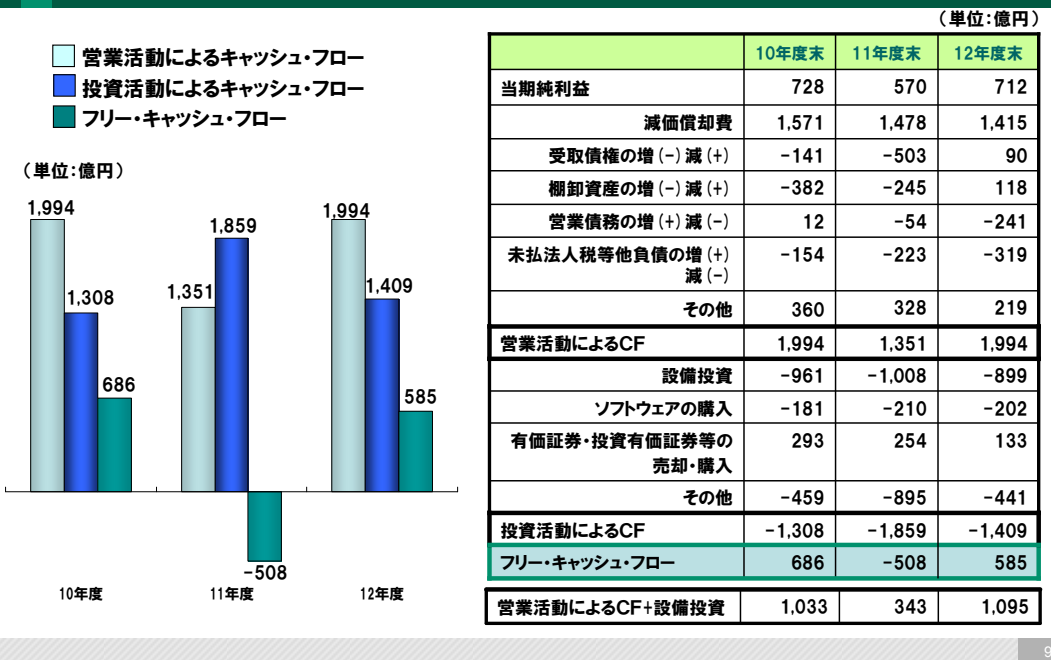
社債発行による現金及び現金同等物の増加などにより、2012年3月末時点と比べ3,199億円増の3兆596億円となりました。

負債は、社債及び長期借入金が増加したことなどにより、1,516億円増の1兆348億円となりました。

株主資本は、当期純利益増に加え、円安による外貨換算の影響などで1,471億円増加し1兆8,689億円となりました。

流動比率は、前期末に比べ94.9ポイント増の285.8%、負債比率は4.1ポイント増の55.4%、株主資本比率は1.7ポイント減の61.1%となり、引き続き資産の流動性及び資本構成の安定性をともに維持しております。

キャッシュ・フロー



続いて、キャッシュ・フローについてご説明します。

営業活動によるキャッシュ・フローは、当期純利益の増加や、棚卸資産が減少などにより、1,994億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、設備投資に伴う有形固定資産の購入や事業買収に伴う支出などにより、1,409億円の支出となりました。

この結果、フリー・キャッシュ・フローは、585億円のプラスとなりました。

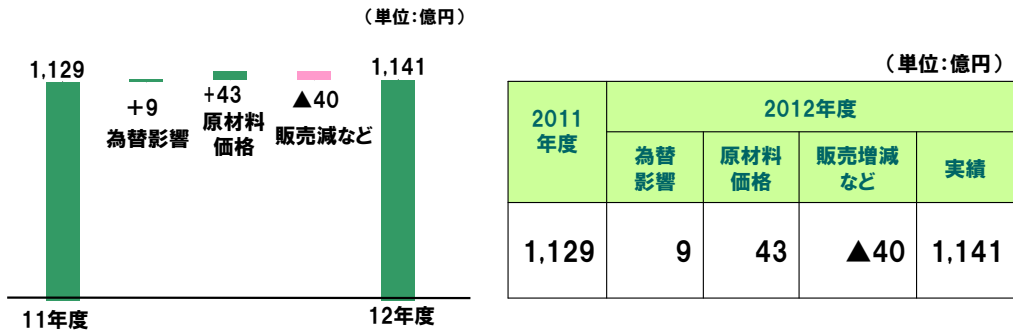
以上で2012年度決算の説明とさせていただきます。

続きまして、社長の中嶋より2013年度業績見通しについてご説明いたします。

2012年度 決算説明会

参考資料

営業利益 増減要因



	2011年度 (平均)	2012年度 (平均)	対前年度
為替			
米ドル	79円	83円	4円安
ユーロ	109円	107円	2円高
原材料			
銀	90,000円/kg	81,000円/kg	▲9,000円/kg (▲10.0%)

<当スライドは配付資料です>

4Q/通期 業績

(単位:億円)

売上高	2011年度		2012年度		対前年度(通期)
	4Q	通期	4Q	通期	
イメージング ソリューション	739	3,227	723	2,948	-279 (-8.6%)
インフォメーション ソリューション	2,413	8,878	2,542	9,077	199 (+2.2%)
ドキュメント ソリューション	2,616	9,848	2,770	10,122	274 (+2.8%)
合計	5,768	21,953	6,035	22,147	194 (+0.9%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益	2011年度		2012年度		対前年度(通期)
	4Q	通期	4Q	通期	
イメージング ソリューション	-2	-40	8	-22	18 (赤字縮小)
インフォメーション ソリューション	176	674	328	743	69 (+10.2%)
ドキュメント ソリューション	205	818	235	759	-59 (-7.2%)
全社/連結調整	-106	-323	-84	-339	-16
合計	273	1,129	487	1,141	12 (+1.0%)

13

<当スライドは配付資料です>

4Q/通期 業績

■ イメージング ソリューション

(単位:億円)

売上高	2011年度		2012年度		対前年度(通期)
	4Q	通期	4Q	通期	
フォトイメージング	463	2,020	532	2,028	8 (+0.4%)
電子映像	276	1,207	191	920	-287 (-23.8%)
合計	739	3,227	723	2,948	-279 (-8.6%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

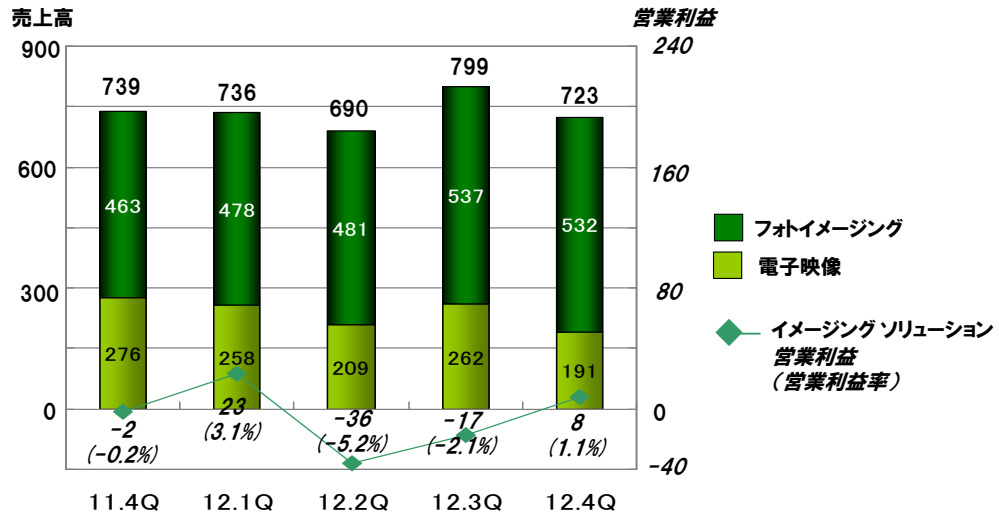
営業利益 [営業利益率]	2011年度		2012年度		対前年度(通期)
	4Q	通期	4Q	通期	
イメージング ソリューション	-2 [-0.2%]	-40 [-1.2%]	8 [1.1%]	-22 [-0.7%]	18 (赤字縮小)

<当スライドは配付資料です>

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ イメージング ソリューション

(単位:億円)



*セグメント間取引消去後

<当スライドは配付資料です>

通期 セグメント別 業績

■ イメージング ソリューション

フォトイメージング

- プリント材料製品が堅調に推移。世界各国で他社からの切替が進んだカラーペーパーの販売は好調。フォトブックを中心とした付加価値プリントの増加も、カラーペーパーの販売好調に寄与。
- 新製品を発売したインスタントカメラの販売が好調に推移。
- 撮影用・上映用の映画フィルムの生産を終了。

電子映像

- コンパクトデジタルカメラの需要減少に歯止めがかからず、売上は減少。
- 2013年2月に発売した「X100S」を含め、高価格機種「Xシリーズ」は堅調に推移。

4Q(3ヶ月)の状況

- フォトイメージングはカラーペーパーの値上げやシェアアップにより、対前年で売上が2ケタ%増加。
- コンパクトデジタルカメラの需要減少傾向は3Q以降も更に悪化。

<当スライドは配付資料です>

4Q/通期 業績

■ インフォメーション ソリューション

(単位:億円)

売上高	2011年度		2012年度		対前年度(通期)
	4Q	通期	4Q	通期	
メディカルシステム ライフサイエンス	935	2,920	1,077	3,373	453 (+15.6%)
グラフィックシステム	584	2,319	645	2,357	38 (+1.6%)
フラットパネルディスプレイ材料	433	1,825	345	1,535	-290 (-15.9%)
記録メディア	130	483	130	425	-58 (-11.9%)
産業機材/電子材料他	208	808	202	875	67 (+8.2%)
光学デバイス	123	523	143	512	-11 (-2.1%)
合計	2,413	8,878	2,542	9,077	199 (+2.2%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	2011年度		2012年度		対前年度(通期)
	4Q	通期	4Q	通期	
インフォメーション ソリューション	176 [7.3%]	674 [7.6%]	328 [12.9%]	743 [8.2%]	69 (+10.2%)

17

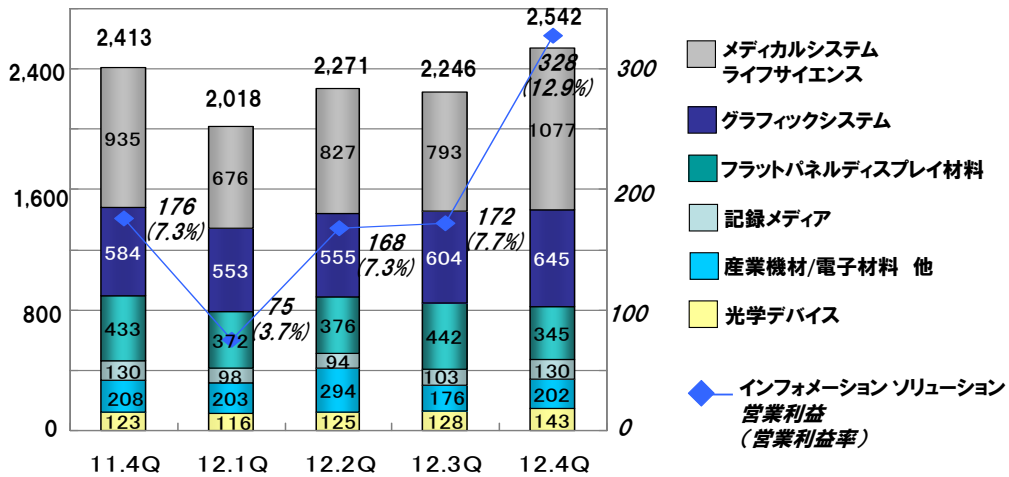
<当スライドは配付資料です>

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ インフォメーション ソリューション

(単位:億円)
営業利益

売上高



* セグメント間取引消去後

<当スライドは配付資料です>

通期 セグメント別 業績

■ インフォメーション ソリューション

メディカルシステム・ライフサイエンス

【メディカルシステム】

- 医療IT分野では医用画像情報システム(PACS)を中心に診療情報分野への事業拡大を進め、売上が増加。「SYNAPSE」は国内約1,850の医療施設に導入されトップシェアを維持。
- 小型デジタルX線画像診断装置「FCR PRIMA」シリーズ、また高画質経鼻内視鏡の販売が好調に推移。
- 携帯型超音波診断装置メーカー「ソノサイト」の連結子会社化により売上が増加。

【医薬品】

- 富士化学は「ソシン」の適応が外科領域まで拡大したことや、「オゼックス細粒」の販売が好調に推移したことにより、売上が増加。
- 富士フィルムファーマは、バイエル薬品より専売権を獲得した薬剤の販売により売上が増加。

【ライフサイエンス】

- リニューアルした化粧品「新アスタリフト」シリーズの販売が人気商材のジェリー、デスティニーなどを中心に順調に推移。
- 3月に発売した新・美白スキンケアシリーズ「アスタリフトホワイト」の販売は好調。

グラフィックシステム

- 需要減少の影響を受けて製版フィルムの売上が減少したものの、CTPプレートやデジタルプリンティング機器の販売は堅調に拡大し、全体の売上が増加。

<当スライドは配付資料です>

通期 セグメント別 業績

フラットパネルディスプレイ材料

- プレーンタック (60 μm 、40 μm) は売上が増加。VA用フィルム・IPS用フィルムも堅調。
- IT機器の需要減に伴い、WVフィルムの売上が減少。

記録メディア

- 業務用ビデオの販売が需要減などの影響を受けて減少したことにより、売上が減少。

産業機材/電子材料 他

- 工業用X線フィルムの販売が堅調だったものの、需要減少の影響を受け、感圧紙などの売上が減少し、全体の売上が減少。
- 電子材料事業は、引き続きArF液浸レジスト、CMPスラリー、イメージセンサー用カラーモザイクなどの販売が好調に推移し、売上が増加。

光学デバイス

- 携帯電話用カメラレンズの販売は増加に転じたものの、プロジェクター用レンズなどの販売減により、売上が減少。

4Q(3ヶ月)の状況

- 4Qに需要のピークのある医療システムの販売が好調で、対前年でも売上が増加。
- FPD材料はIT機器の需要が引き続き弱く、WVフィルムの販売が減少し、3Qと比べて売上が減少。

<当スライドは配付資料です>

4Q/通期 業績

■ ドキュメントソリューション

(単位:億円)

売上高	2011年度		2012年度		対前年度(通期)
	4Q	通期	4Q	通期	
オフィスプロダクト	1,261	4,870	1,236	4,890	20 (+0.4%)
オフィスプリンター	413	1,590	429	1,585	-5 (-0.3%)
プロダクションサービス	407	1,534	428	1,484	-50 (-3.2%)
グローバルサービス	297	996	396	1,223	227 (+22.8%)
その他	238	858	281	940	82 (+9.5%)
合計	2,616	9,848	2,770	10,122	274 (+2.8%)

*セグメント間取引消去後

*2012年度よりオフィスプロダクト・プロダクションサービスにおいて商品分類の組み換えを行っており、2011年度の数字についてもリステートしております。

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	2011年度		2012年度		対前年度(通期)
	4Q	通期	4Q	通期	
ドキュメント ソリューション	205 [7.7%]	818 [8.2%]	235 [8.4%]	759 [7.4%]	-59 (-7.2%)

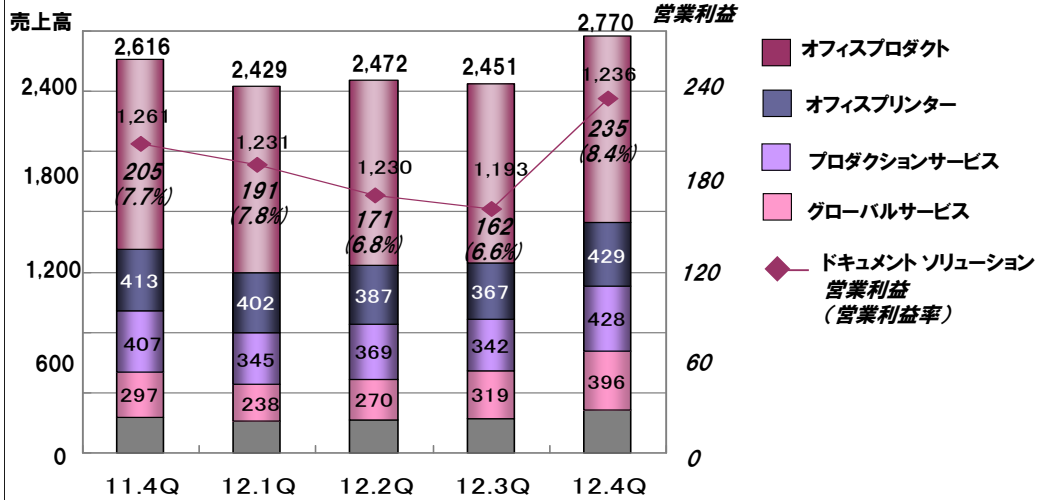
21

<当スライドは配付資料です>

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ ドキュメントソリューション

(単位:億円)



*セグメント間取引消去後

*2012年度よりオフィスプロダクト・プロダクションサービスにおいて商品分類の組み換えを行っており、2011年度の数字についてもリステートしております。

<当スライドは配付資料です>

通期 セグメント別 業績

■ ドキュメント ソリューション

オフィスプロダクト

- 国内において、販売台数が増加したものの、コピー単価の下落により、消耗品および保守サービス売上は減少。
- アジア・オセアニア地域において、2012年6月発売の「DocuCentre S2010/S1810」が好調に推移。

オフィスプリンター

- アジア・オセアニア地域において、モノクロ機、カラー機ともに販売台数が増加。

プロダクションサービス

- アジア・オセアニア地域において、カラー・オンデマンド・バブリッティング・システム「Color J75 Press」の販売好調により販売台数が増加。

グローバルサービス

- 国内において、マネジメント・プリント・サービス事業が大きく伸長し、売上が2ケタ%成長を実現。
- アジア・オセアニア地域において、買収した豪州のビジネスプロセスアウトソーシング事業が寄与し、売上が2ケタ%増加。

4Q(3ヶ月)の状況

- 米国ゼロックス社向け輸出は依然として厳しい状況が続いているものの、為替の円安効果もあり、対前年で売上が若干増加。

<当スライドは配付資料です>

国内・海外別連結売上高

(単位:億円)

	2011年度		2012年度		対前年度
	構成比 (%)		構成比 (%)		
日本	46.2%	10,127	45.3%	10,024	-103 (-1.0%)
米州	16.7%	3,676	17.7%	3,933	257 (+7.0%)
欧州	12.0%	2,627	11.3%	2,504	-123 (-4.7%)
内、中国	9.3%	2,052	9.2%	2,038	-14 (-0.7%)
アジア他	25.1%	5,523	25.7%	5,686	163 (+3.0%)
海外	53.8%	11,826	54.7%	12,123	297 (+2.5%)
合計	100.0%	21,953	100.0%	22,147	194 (+0.9%)

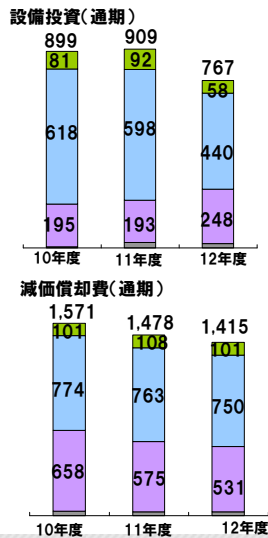
24

<当スライドは配付資料です>

設備投資、減価償却費

- イメージングソリューション
- インフォメーションソリューション
- ドキュメントソリューション
- コーポレート

(単位:億円)



	2010年度		2011年度		2012年度		2013年度
	4Q	通期	4Q	通期	4Q	通期	通期 (予想)
イメージング	25	81	36	92	13	58	
インフォメーション	207	618	153	598	106	440	
ドキュメント	84	195	82	193	110	248	
コーポレート	-12	5	6	26	7	21	
設備投資 ※	304	899	277	909	236	767	900
イメージング	30	101	36	108	33	101	
インフォメーション	220	774	212	763	212	750	
ドキュメント	161	658	142	575	137	531	
コーポレート	10	38	9	32	7	33	
減価償却費	421	1,571	399	1,478	389	1,415	1,400
有形固定資産の 減価償却費 ※	296	1,066	271	966	269	934	900

※ ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く。

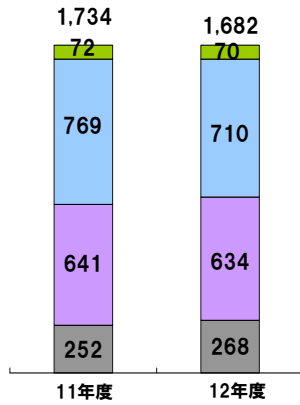
<当スライドは配付資料です>

研究開発費、販売費および一般管理費

- イメージングソリューション
- インフォメーションソリューション
- ドキュメントソリューション
- コーポレート

(単位:億円)

研究開発費(通期)



	2011年度		2012年度	
	4Q	通期	4Q	通期
イメージング	15	72	16	70
インフォメーション	199	769	198	710
ドキュメント	173	641	173	634
コーポレート	86	252	63	268
研究開発費	473	1,734	450	1,682
<売上高比>	8.2%	7.9%	7.5%	7.6%
販売費及び一般管理費	1,545	5,814	1,336	5,682
<売上高比>	26.8%	26.5%	22.1%	25.6%

<当スライドは配付資料です>

為替、為替感応度、人員

為替

(単位:円)

	2011年度					2012年度					2013年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	通期(予想)
米ドル	82	78	77	79	79	80	79	81	93	83	95
ユーロ	117	110	104	104	109	103	98	105	122	107	125

*2013年度 営業利益 為替感応度 米ドル:11億円、ユーロ9億円

人員

(単位:人)

	2012.3末	2012.6末	2012.9末	2012.12末	2013.3末
連結	81,691	80,155	79,845	81,542	80,322

<当スライドは配付資料です>

参考情報

富士フィルムホールディングス 株主・投資家情報

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/index.html>

IRイベント資料

http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir_events/business_presentations/index.html

・カンファレンス資料

- － 2012年12月 野村インベストメントフォーラム2012
- － 2013年 3月 大和インベストメントカンファレンス2013

・事業説明会資料

- － 2012年 9月 メディカルシステム事業説明会
- － 2012年11月 医薬品事業説明会
電子材料事業説明会

富士フィルムってどんな会社？

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/individual/guidance/index.html>

FUJIFILM

わたしたちは、先進・独自の技術をもって、
最高品質の商品やサービスを提供する事により、
社会の文化・科学・技術・産業の発展、
健康増進、環境保持に貢献し、
人々の生活の質のさらなる向上に寄与します。

富士フイルム ホールディングス株式会社

経営企画部 IR室

<http://www.fujifilmholdings.com>

FUJIFILM

2012年度 決算説明会

2013年度 業績予想

代表取締役社長・COO
中嶋 成博

2013年4月30日

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

中嶋でございます。

続きまして、2013年度通期業績予想についてご説明します。

2013年度 連結業績予想 (2013年4月30日時点)

(単位:億円)

	2012年度	2013年度 (予想)	対前年度
売上高	22,147 100.0%	23,500 100.0%	1,353 +6.1%
営業利益	1,141 5.2%	1,400 6.0%	259 +22.7%
税金等調整前 当期純利益	1,192 5.4%	1,400 6.0%	208 +17.5%
当社株主帰属 当期純利益	543 2.5%	700 3.0%	157 +29.0%
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	112.65円	145.27円	32.62円
為替 :米ドル :ユーロ	83円 107円	95円 125円	12円安 18円安

*2013年度 営業利益 為替感応度 米ドル:11億円、ユーロ9億円 銀価格想定 97,000円/kg

32

2013年度の業績予想は、売上高については前年比6.1%増の2兆3,500億円、営業利益については前年比22.7%増の1,400億円の、増収増益を見込んでいます。

税金等調整前当期純利益については、前年比17.5%増の1,400億円、当社株主帰属当期純利益は、前年比29%増の700億円を予想しております。

2013年度 業績予想のポイント (2013年4月30日時点)

■為替円安

想定レート：米ドル 95円(対前年12円安)、ユーロ 125円(対前年18円安)
為替感応度(年間)：米ドル 11億円、ユーロ 9億円

■メディカル・ライフサイエンスの大幅な増収増益

- ・メディカルシステムのIT・内視鏡・超音波の売上2ケタ%成長
- ・医薬品の富山化学・富士フィルムファーマ、富士フィルムダイオシンスバイオテクノロジーズ(バイオ医薬品受託製造)での拡販を中心とした増収増益・黒字化
- ・ライフサイエンスでは化粧品のラインアップ拡充と新製品拡販による増収増益

■厳しいビジネス環境の電子映像(デジタルカメラ)で大幅損益改善

- ・高価格機種・レンズ交換式システムの拡販
- ・コンパクトタイプの機種数削減など機種構成を大幅に見直し、差別化商品に集中
- ・固定費の大幅削減

33

今年度は、成長戦略に基づき取り組んできた各施策により、いよいよ本格的な成長軌道にのると考えており、大幅な増益を予想しております。
この増益予想のポイントについて、ご説明します。

まずは為替です。

昨年度の後半から円安傾向となっており、2013年度の為替の想定は、ドルが95円、ユーロが125円としており、為替影響による大幅な利益改善を見込んでおります。
年間の為替感応度は、ドルが11億円・ユーロが9億円です。

続いて、ポイントとなる事業についてご説明します。

成長領域のメディカル・ライフサイエンスは、大幅な増収増益を見込んでいます。
まず、メディカルシステムはIT・内視鏡・超音波での売上2ケタ%の成長を継続して目指します。

医薬品は、富山化学・富士フィルムファーマでの既存薬の拡販や、バイオ医薬品受託製造での売上成長と収率改善などにより、売上900億円をターゲットに増収、増益で黒字化を目指します。

またライフサイエンスでも、「アスタリフトホワイト」や「ビューティファイター」などの新製品を拡販し、増収増益を見込んでいます。

電子映像は、2012年度はコンパクトカメラの需要が急減し、2013年度は前年比でさらに総需が約3割減少すると見えています。

このような厳しい事業環境でも損益を確保するための施策により、今年度は黒字化を目指します。具体的には、Xシリーズなどの高価格機種、レンズ交換式システムを拡販します。一方、コンパクトタイプの機種数を大幅に削減し、差別化商品に集中します。またそれに伴い、固定費を2～3割程度、削減する予定です。

2013年度 業績予想のポイント (2013年4月30日時点)

■ FPD材料の収益維持と高機能材料の拡販

【FPD材料】

- ・WVフィルムの落ち込みを、VA・IPS用フィルム、プレーンタックの拡販によりカバー
- ・25 μm超薄手フィルムなど、中小型向けの拡販
- ・WVフィルムの新規需要開拓(タブレットPC、ウルトラブックなど)
- ・大型設備投資に一旦目途をつけたことによる、償却費負担の減少

【高機能材料】

- ・タッチパネル用センサーフィルム「エクスクリア」などの拡販

■ ドキュメントの営業利益率向上

- ・グローバルサービス、プロダクションサービス及びソリューションサービスの更なる強化と事業拡大
 - 顧客の課題解決を通じた日本国内のサービス事業拡大
 - 豪州サービスプロバイダー買収をトリガーとしたアジア・オセアニア地域でのサービス事業の拡大
- ・付加価値の訴求による機器販売の更なる拡大と収益性向上
- ・一層のコスト低減・経費削減の推進による収益性改善

34

フラットパネルディスプレイ材料は、パソコンの需要減少にともない、主にモニター向けに使われるWVフィルムの売上の減少が見込まれますが、画面面積で需要が伸びているTV向けのVA・IPS用フィルムやプレーンタックの拡販、また需要の急成長が期待される中小型ディスプレイ向けの超薄手フィルムの拡販などでカバーします。またWVフィルムも新規需要対応を急ピッチで進めます。また大型設備投資に一旦目途をつけており、償却費負担が前年比で数十億円レベルで減少する見込みです。

また高機能材料では、タブレットPCやノートPCなどに搭載される、タッチパネル用センサーフィルム「エクスクリア」などの高機能材料を拡販します。エクスクリアについては、生産設備を強化し、今年の6月には生産能力を現在の2倍以上に引き上げる予定です。

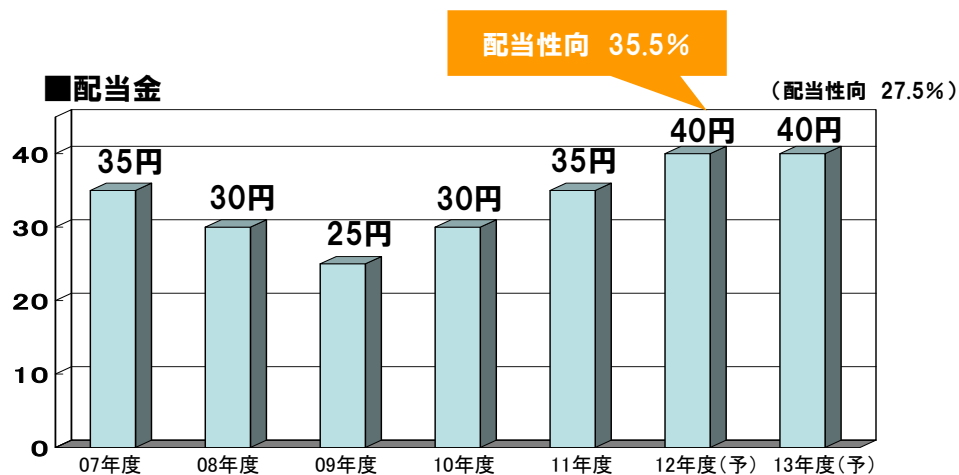
ドキュメントは、グローバルサービス、プロダクションサービス、またオフィス向けのソリューションサービスを強化し、事業を拡大します。日本では、長年つちかしてきた直販の強みを生かし、顧客の課題解決を通じたサービス事業を拡大します。またアジア・オセアニア地域では、昨年買収しましたオーストラリア・サルマット社のBPO部門を軸に、サービス事業を拡大します。

既存ビジネスにおいても、機器の付加価値の訴求による拡販と収益性向上を図ります。

さらに、一層のコスト低減・経費削減を推進することにより、営業利益率を向上させ、早期の営業利益率10%の達成を目指します。

株主還元

- 配当を重視。配当性向を25%以上に設定
- 自己株式取得は、キャッシュフローを勘案し、機動的に実施



35

最後に、株主還元の状況についてご説明します。

当社の株主還元方針は、配当性向を25%以上に設定し、配当を重視した還元策を基本としております。

自己株式取得は、キャッシュフローを勘案し機動的に実施します。

2012年度も、配当重視の考えから、1株当たり5円増配の40円を予定しており、配当性向は目標値の25%を大幅に上回る、35.5%となります。

また、2013年度の配当金は、1株当たり40円を予定しております。



わたしたちは、先進・独自の技術をもって、
最高品質の商品やサービスを提供する事により、
社会の文化・科学・技術・産業の発展、
健康増進、環境保持に貢献し、
人々の生活の質のさらなる向上に寄与します。

富士フイルム ホールディングス株式会社

経営企画部 IR室

<http://www.fujifilmholdings.com>

以上、2012年度決算および2013年度の見通しについて、ご説明いたしました。
ご静聴いただき、ありがとうございました。